

AJC-CMS通信 Vol.4

AJC-CMS活用インタビュー

02 — 神奈川県ケーブルテレビ協議会 夏の高校野球ダイジェスト制作にAJC-CMSを活用

04 — 囲碁・将棋チャンネル AJC-CMSでケーブルテレビ局と将棋大会番組を制作

じもテレインタビュー

06 — 日本ケーブルテレビ連盟 BtoCだけじゃない「じもテレ」はBtoBでも作用する

08 — AJC-CMS利用実績/AJC-CMS利用料金/編集後記



神奈川県内のケーブルテレビ連携が AJC-CMSでよりスムーズに

33市町村を有する神奈川県では、ケーブルテレビ局10社が参加する「神奈川県ケーブルテレビ協議会」を中心に、県内ケーブルテレビ局間での共同番組制作が活発に行われており、その中でAJC-CMSが活用されている。そこでAJC-CMSの具体的な活用方法や、利用してみた感想などについて、イツツ・コミュニケーションズ(株)(東京・世田谷区、市来利之社長、以下イツツコム)に話を聞いた。



高橋敏志氏

イツツ・コミュニケーションズ(株)
メディア・コンテンツ部課長

高校野球のダイジェストを 県内全局で制作

— 神奈川県ケーブルテレビ協議会ではAJC-CMSをどのように利用しているのでしょうか。

高橋: 神奈川県ケーブルテレビ協議会は、神奈川県下のケーブルテレビ事業者が参加する組織で、現在は県内の全10社が参加しています。2012年には「かながわCATV情熱プロジェクト」を発足し、県内のケーブルテレビ局での共同番組制作・配信やイベント企画などを開始しました。今年4月からは、小・中・高校生を対象に、世界を目指して活躍する“神奈川の

未来のトップアスリート”たちを密着取材する『かながわ情熱アスリート』を制作し、各局のコミチャンで放送しています。そうした中でAJC-CMSも活用されており、その一例として、夏の高校野球神奈川県大会のダイジェスト番組の制作を挙げることができます。

神奈川県ケーブルテレビ協議会では昨年より夏の高校野球県大会ダイジェスト番組の制作・放送を開始しました。各球場の試合結果やハイライト映像をスタジオゲストによる戦評などととも放送するもので、試合開催日の22時30分より全局同時間にオンエアしました。他県でもMSOが中心となって高校野球のダイジェスト番組を放送する例はありましたが、これだけ多くの局が集まって高校野球の中継や番組制作を行う例は珍しいのではないのでしょうか。

具体的な制作工程ですが、まず制作に参加する各局が試合の開催される球場で映像を収録。それを自局に持ち帰り、数分程度の映像素材に編集します。編集された映像はAJC-CMSにアップロードされ、それを番組収録の行われる(株)ジェイコム湘南でダウンロードします。ダウンロードされた映像は、ダイジェスト番組収録でサブ出し素材として使用される形です。収録された番組は、ジェイコム湘南から神奈川県内のネットワークを利用して各局へ伝送されました。

映像素材伝送は当初からAJC-CMSの利用を前提としたわけではありません。しかし実際にジェイコム湘南のスタジオへの最も効率的な伝送方法を考えた時、AJC-CMSの利用が最適でした。最終的なスタジオへの素材伝送方法がテープ等のメディアだと、配送等に時間がかかり、放送に間に合わなくなる可能性もありましたが、AJC-CMSならばその点をクリアできました。

ただしAJC-CMSを利用し始めた当初は、映像を収録した局が同じような時間帯に素材をアップロードしようとしたため、回線やサーバーに負荷がかかって、アップロードやダウンロード時間を要してしまうこともありましたが、そこで今年クラウドストレージも並行して使用する形にし、サーバー



『高校野球ダイジェスト2014』収録の様子。AJC-CMS等で集められた素材がサブ出し映像として使用された

かながわCATV情熱プロジェクト 高校野球ダイジェスト2014

「第96回 全国高校野球選手権」神奈川県大会の模様を、1～2回戦の一部試合と、3回戦～決勝戦までの全試合、合計63試合のダイジェスト番組を、試合開催日の22時30分より30分のダイジェスト番組として放送。番組はスタジオのあるジェイコム湘南より、神奈川県内のネットワークを通じて「かながわCATV情熱プロジェクト」参加局に伝送された。

負荷を回避することでスムーズな伝送を行えました。その他、『かながわ情熱アスリート』等の番組で急遽差し換え等が発生した場合にも、AJC-CMSを利用して差し換え素材の配信を行なっています。

コスト削減や 業務省力化に効果アリ

——イッツコムでAJC-CMSを利用してみたのご感想は。

高橋：時間的拘束から解放された点や、マンパワーの節約などの効果が大きいですね。テープ配送などで近隣局と番組の共同制作や交換をしていた頃は、バイク便や宅配便のタイムサービスなどを使って配送していたので、配送コストがかかり、配送の準備も必要でした。しかしAJC-CMSならファイルをそのまま送るだけなのでコストもマンパワーもかからず、より効率的に作業を進められるようになりました。受け取った後も映像ファイルをそのままノンリニア編集に持っていくことができるので便利です。テープだと実時間でエンコードが必要となるため、この差も大きいですね。

また他局の番組を購入検討したりチェックしたりする際にも、AJC-CMSは便利です。他局からテープで送られてきた

番組をチェックする場合、これまでは編集室にテープを持って行って再生し、チェックする必要がありました。しかしAJC-CMSではプレビュー映像を見られるので、自分のデスクのPCからAJC-CMSにアクセスして、プレビュー映像から簡単に番組をチェックすることができ、番組を探しやすくなりました。より積極的に番組を購入・交換しやすい環境ができ、そこから他局とのコミュニケーションも広がっています。自局で番組制作をする際にも、全国への販売を意識するようになりました。

——今後AJC-CMSに求めることがありましたら教えてください。

高橋：各局がコンテンツをアップロードした際に送られてくるメールの数が多いので、ジャンルやカテゴリーを選択できるなど、必要なメールだけを受信できるような機能があればいいですね。また、いずれはAJC-CMSに追いつけ再生的な機能が実装されないかと期待しています。こちらが生中継番組をアップロードしつつ、それを他局がすぐにダウンロードし放送すれば、ニアライブでの番組中継が可能となります。その他、ケーブルテレビ局間の番組販売に決済システムを導入していただければ、よりコンテンツ流通が活性化するのはないでしょうか。

多チャンネル市場の拡大に向け AJC-CMSでケーブルテレビ局と連携

AJC-CMSを利用するのはケーブルテレビ局だけではない。多種多様な番組をケーブルテレビに提供するチャンネルサプライヤーも、AJC-CMSを利用した取り組みを開始している。ここでは中でも積極的にAJC-CMSを活用している囲碁・将棋チャンネル((株)囲碁将棋チャンネル、東京・千代田区、岡本光正社長)に話をうかがった。



岡本光正氏

(株)囲碁将棋チャンネル 代表取締役社長
(株)東北新社 取締役 上席常務執行役員 放送本部長



J:COM杯 3月のライオン 子ども将棋大会

全国の小・中学生が腕を競い合った「J:COM杯 3月のライオン子ども将棋大会」

ジュビターテレコムと囲碁・将棋チャンネルが主催する、人気コミック「3月のライオン」とコラボした小・中学生を対象とした全国将棋大会。2014年に開催された第3回大会は全国7会場での予選大会から16名が決勝トーナメントに進出し、優勝を争った。大会の様子は囲碁・将棋チャンネル、およびJ:COMのコミチャン(J:COMチャンネル、J:COMテレビ)で放送された。

定額制のAJC-CMSは 使えば使うほどお得

— 囲碁・将棋チャンネルでAJC-CMSを利用されているとのことですが、その狙いは。

岡本: 囲碁・将棋チャンネルは、囲碁や将棋の対局番組や講座番組等を放送しており、ケーブルテレビ局の採用が非常に多いチャンネルです。

私が最初にAJC-CMS構想について話を聞いたとき、その可能性を強く感じました。有料多チャンネル放送の普及のために今最も大事なことの1つがプロモーションです。多チャ

ンネルの認知度をいかに高めるかが非常に重要な時期となっています。このプロモーションにおいてAJC-CMSを使えば、全国の約2,800万世帯で視聴できると言われるコミュニティチャンネル向けに多チャンネルコンテンツを効率的に配信でき、コミチャンの活性化はもちろん、多チャンネルの認知向上と加入増にもつなげることができるのではないかと—そう考え、まだAJC-CMSの詳細が決まる前から「利用します」と、日本ケーブルテレビ連盟の担当者には伝えていました。

かつて衛星放送協会でもコミチャンで放送可能なコンテンツを無償提供したことがありましたが、その際はDVD等のメディアで配送を行なったため、メディア費や配送費等のコストがかさみ、継続的に取り組むことができませんでした。しかしAJC-CMSならばそういったコストが発生せず、コン

テンツを多数の局に伝送することができます。AJC-CMSをサプライヤーが利用するためには月額10万円の利用料がかかりますが、定額制なので使えば使うほどお得で、コスト的にはそれほど気になりません。むしろある程度定期的にコンテンツを配信しつつ、スポットで数回利用する程度で、他のオンラインストレージサービスを利用するよりもコストは安くなります。

将棋大会番組をJ:COMと共同制作

— 具体的には、どのようにAJC-CMSを利用しているのでしょうか。

岡本：まず昨年4月末～5月上旬に、AJC-CMSに講座番組など約200コンテンツをアップロードし、これを無料で希望局に提供しました。囲碁・将棋チャンネルの採用局であることや、1年間コミチャンで帯番組として提供する等の条件はありましたが、最終的には30局にご利用いただきました。弊社の取り組みをきっかけに、AJC-CMSの利用を開始した局もあるそうです。この取り組みは今年度も実施しており、今年度からはケーブルテレビ局の要望を受けて、棋譜解説番組も配信しています。

また囲碁・将棋チャンネルでは(株)ジュピターテレコム(以下J:COM)との共催で小中学生向けの将棋大会「J:COM杯3月のライオン子ども将棋大会」を開催し、その模様を弊社のチャンネルやJ:COMのコミチャンで放送していますが、この番組制作にもAJC-CMSが活用されています。

まず全国各地の会場で行なわれる予選大会の模様を全国5カ所にあるJ:COMのメディアセンターに撮影いただき、その映像をAJC-CMSを使って囲碁・将棋チャンネルへと伝送していただきました。当チャンネルではその映像素材を元に番組を制作。完パケとなった番組は再びAJC-CMSにアップロードされ、今度はそれをJ:COMのメディアセンター各局がダウンロードしてコミチャンで放送していただきました。AJC-CMSを利用し、弊社とJ:COMで番組を共同制作している形ですね。

全国では実に100カ所以上で囲碁大会が開催されていますので、そういった大会をケーブルテレビ局に撮影いただいて、それを囲碁・将棋チャンネルで番組化し、弊社のチャンネルやコミチャンで放送するような使い方をもっと広がってほしいと考えています。



AJC-CMSで配信された番組の1つ

『将棋入門講座「将棋入門13のマナーとポイント」』室谷由紀女流初段

© 囲碁・将棋チャンネル

東北新社グループでも利用が進む

— 囲碁・将棋チャンネル以外の東北新社グループのチャンネルでも、AJC-CMSを利用されていますか。

岡本：東北新社グループでは、囲碁・将棋チャンネル以外の専門チャンネルでもAJC-CMSの利用を進めています。すでにスーパー！ドラマTV、ザ・シネマ、クラシカ・ジャパンでは利用を開始し、その他のチャンネルでも利用を検討しています。特にスーパー！ドラマTVでは新作ドラマの第1話をお試し視聴コンテンツとしてケーブルテレビ各局に提供していますが、これまではHDCAM等のメディアで送っていたため、かなりのコストと手間がかかっていました。これをAJC-CMSでの伝送に切り替えることでコストを削減することができています。

我々としては、できるだけ多くのケーブルテレビ局にAJC-CMSを使っていただきたいと考えています。そうすれば専門チャンネルは、より多くのケーブルテレビ局と連携できるようになりますからね。いずれはケーブルテレビ局向けのオリジナルコンテンツも制作してみたいと考えており、そうした協力関係の中で、ともに手を取り合って多チャンネル放送市場を伸ばしていければと考えています。

また現在、囲碁・将棋チャンネルではアプリの開発・配信も行なっておりますので、アプリ等の映像以外データもAJC-CMSで伝送可能になれば、より利用の可能性が広がると思います。

BtoCだけじゃない 「じもテレ」はBtoBでも作用する

一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟(東京・中央区、西條温理事長)は8月1日より、BtoC向けケーブルテレビコンテンツ配信システム「じもテレ」(<http://jimotv.jp>)の本格稼働を開始した。広く一般に自主制作コンテンツを配信できるこのシステムによって、ケーブルテレビ局は、どのような効果を得ることができるのだろうか。



糸田純一氏

一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟
コンテンツ・ラボ

制作部署以外でも他局の番組を視聴できる

—「じもテレ」を利用することで、ケーブルテレビ局にはどのような効果やメリットがあるのでしょうか。

糸田：「じもテレ」はケーブルテレビ局のコンテンツをBtoC配信するシステムです。現在「じもテレ」のベースとなっているAJC-CMSは利用局数が300局を超えるなど、テーブルスの番組流通システムとして多くの局に利用いただいております。コンテンツアップロード数は毎月約1,000本にも上っています。こうして全国のケーブルテレビ局間で流通しているコンテンツを、BtoBだけではなくBtoCに展開することで、ケー

ブルテレビサービスや地域への呼び込みコンテンツとして利用することが、「じもテレ」開設の目的の1つとなっています。BtoCで広く番組を視聴いただくことでケーブルテレビ業界のプレゼンス向上を図る狙いもあります。

またBtoCで配信することで、放送とは異なるコンテンツ評価を得ることができます。IPの世界ならば視聴ログも取りやすいですし、コメント投稿を促進すればより直接的な感想も得られます。データや感想のフィードバックは、制作者のモチベーション向上につながられるのではないのでしょうか。

こうしたBtoC配信システムとしての側面の一方で、「じもテレ」は、実はBtoBでもケーブルテレビ局に活用いただけるものとなっています。

たとえば、制作部署以外のケーブルテレビ局のスタッフでも、他局の自主制作コンテンツを広く視聴できる環境が、「じもテレ」開設によって整いました。AJC-CMSでもプレビュー機能を利用して他局の制作コンテンツを視聴することはできましたが、セキュリティの都合上各局でAJC-CMSを利用可能なPCは限られており、局のスタッフ誰もが自由に利用できる環境ではありませんでした。しかし「じもテレ」ならば、誰でも自分のPCやタブレット端末、スマートフォンなどで簡単にサイトにアクセスでき、アップロードされたコンテンツを視聴することができます。

ケーブルテレビの競争力を高めるための差別化策として自主制作コンテンツの強化が挙げられることが多いですが、局のトップを含め、制作以外の部署の方が他局の制作コンテンツを視聴できる機会はあまり多くなかったと思います。しかし「じもテレ」の誕生によって、部署に関わらずケーブルテレビに関わる人誰もが、数多くの自主制作コンテンツを視聴できるようになりました。ぜひさまざまな局のコンテンツを「じもテレ」で視聴いただき、自社の番組制作の参考にいただければと思います。コンテンツ購入や番組交換に際し、あらかじめ多くのコンテンツを視聴できるコンテンツショーケースとしての役割も期待できます。

BtoCだけでなく、
BtoBでも効果が期待
できる「じもテレ」



その他「じもテレ」は営業ツールとしての活用も可能です。最近ではタブレット端末を営業に活用する局が増えていますが、タブレットでも「じもテレ」は視聴可能ですので、加入営業や自治体との連携を図る際などに、自主制作コンテンツを紹介する手段としてお使いいただけると思います。

音楽著作権は連盟で一括処理

— IPベースのサービスですので、著作権処理が放送とは異なるとは思います。

糸田：そうですね。「じもテレ」にアップロードするコンテンツに関して、出演者などの許諾は各局で取っていただくことになります。音楽著作権に関しては、日本ケーブルテレビ連盟が音楽著作権団体と交渉を進めており、「じもテレ」に登録された番組の音楽著作権処理をまとめて行うことで合意を得ています。この点については2014年10月より、全国11カ所で支部単位の説明会を開催し、各局にご説明しています。

高校生の映画祭と連携、新たな地域コンテンツに

— ケーブルテレビ局以外のコンテンツ配信の予定はありますか。

糸田：今年9月末よりNPO法人映画甲子園が主催する高校生を対象とした映画コンテスト「eiga worldcup 2014」の応募作品を「じもテレ」で配信しており、現在約180作品がアップロードされています。

同コンテストでは、以前はYouTubeでの作品配信を行なっ

ていましたが、アップロードされた作品に学校や高校生のイメージとは異なる広告が貼られてしまう可能性があることを憂慮していました。そこでそうした点をしっかりとコントロールできるプラットフォームとして「じもテレ」での作品配信が決定したのです。またケーブルテレビ局のプラットフォームと連携することで、放送でも作品を扱ってもらえる可能性が生まれる点も考慮したというお話を「eiga worldcup」側からはうかがっています。

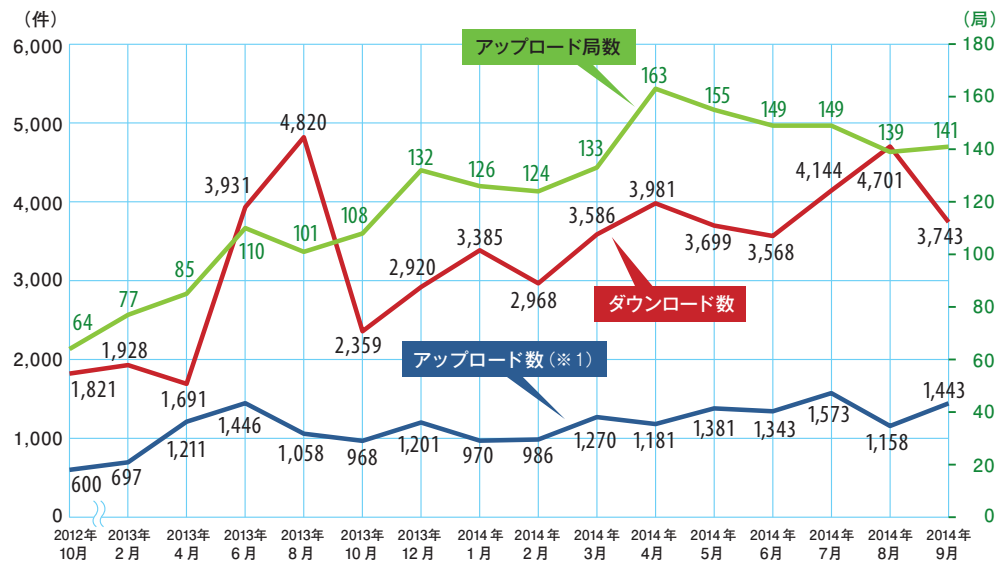
ケーブルテレビ側から見ても、たとえば地元の高校が「eiga worldcup」に出場しているならば、作品を放送することで地域の代表として高校生たちを盛り上げたり、あるいは映像のプロとして撮影指導をしたりと、「eiga worldcup」とさまざまな連携を図れる可能性があります。若い世代にケーブルテレビに興味を持っていただくきっかけにもなりますし、この取り組みはケーブルテレビ、「eiga worldcup」両者にメリットのあるものだと思います。今後も「eiga worldcup」とは、協力関係を継続していく予定です。

— ケーブルテレビ局に、どのように「じもテレ」をご利用いただけますか。

糸田：手作りの動画配信プラットフォームですので、まだ整備が進んでいない部分はありますが、ぜひ多くの局に興味を持っていただき、さまざまな意見を頂戴しながら構築を進めていければと考えています。たくさんコンテンツをアップロードいただきつつ、自分たちのツールとして楽しんで使っていただければと思います。

またせっかくBtoCでコンテンツを配信するサイトができましたので、コンテンツを制作する際に、自分たちの地域・エリア以外の方も視聴する可能性があることも考慮して制作し、ぜひ広く視聴されるようなコンテンツをアップロードしていただければと思います。

AJC-CMSの利用実績



※1:アップロード数には、アップロードに失敗したコンテンツおよび同名タイトルのものは含まれない

AJC-CMS利用料金表

オペレータ(※2)	月額	年額
正会員オペレータ(本部会員を対象とします)	8,000円(税抜)	96,000円(税抜)
非会員オペレータ	10,000円(税抜)	120,000円(税抜)
お知らせ受信限定会員(※3)	無償	

※2:お申し込みは、局(利用規約に定義)単位とします

※3:お知らせ受信限定会員は、連盟の認める一部コンテンツ、およびサプライヤーの提供する番組宣伝コンテンツ等のダウンロードの利用に限定されます

サプライヤー(※4)	月額	年額
正会員サプライヤー	100,000円(税抜)	1,200,000円(税抜)
正会員サプライヤー(ライトコース)(※5)	20,000円(税抜)	240,000円(税抜)

※4:お申し込みは、チャンネル単位(利用規約に定義)とします

※5:ライトコースは月間HD番組10時間までのアップロード制限での利用とします

〈お申し込みに関するお問い合わせ先〉

一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟 コンテンツ・ラボ事務局

Eメール: jcta_contents-lab@catv.or.jp TEL:03-3566-8200 FAX:03-3566-8201

編集後記



今回の高校野球のような共同制作などへの活用やサプライヤーでの利用例等、そのたびに様々な課題が出てきます。それは、お客様に喜ばれる放送を実現するための有意義なハードルです。(藤本)



「じもテレ」は一般の方にケーブルコンテンツを見ていただくことが重要な目的ですが、今回のご紹介のように、ケーブル局内部やケーブル局間でも、活用の意義は高いです。今後、海外向けのショーケースとしての活用も楽しみです。(糸田)